

O20-4 高齢経産の分娩は高齢初産と同様の危険因子を有するか？

今井産科婦人科クリニック

今井公俊

【目的】 高齢妊婦が若年妊婦に比して、難産や分娩時の異常が多いのは良く知られているが、初産と経産においてどのような違いがあるのかに関しては十分な報告がない。そこで今回高齢妊婦を初産経産に分けてそれぞれ若年妊婦との比較検討を加えた。

【方法】 対象は、2004年から2022年迄の19年間に当院で出産した妊娠37週以降の頭位単胎妊婦で、20代を若年群、35歳以上を高齡群として、初産と経産に分けて、妊娠週数、母体身長体重、body mass index(BMI)、妊娠中増加体重、児体重児頭囲、Apgar Score5分值、臍帯動脈血pH、base excess(BE)、分娩様式、分娩第1期第2期所要時間、出血量、生殖補助医療(ART)妊娠の有無、誘発の有無、硬膜外麻酔による和痛の有無を後方視的に検討した。陣痛発来前の胎児胎内死亡、既往帝王切開は除外した。

【成績】 初産若年群1432人初産高齡群514人、経産若年群845人経産高齡群1116人が今回の検討対象となった。初産経産共に高齡群で母体妊娠前体重、BMI、ART妊娠、誘発、硬膜外麻酔使用、吸引分娩が有意に多く、分娩第2期が有意に長く、妊娠中増加体重が有意に少なかった。初産でのみ、高齡群で帝王切開と分娩時出血量が有意に多かった。経産でのみ、高齡群で児体重と児頭囲が有意に大で、臍帯動脈血pH、BEが有意に低値であった。

【結論】 高齢妊婦は、初産と経産では異なるリスクを有する事が判明した。